

キョ・ イフェイー

ちびまる子ちゃんの感想文

先週は日本語のクラスで「ちびまる子ちゃん—私の好きな歌」という映画を見ました。最初、このテーマを見て、楽しくて、見やすい映画だと思いました。そして、アニメの映画だから、子供たちのために、作られたかもしれないとおもいました。それに、ちびまる子ちゃんのアニメは私の国で子供たちにしか人気がありません。子供の思いは純朴だとおもうし、子供が見るのは簡単にしてあるし、こんなアニメは映画やドラマに比べて奥深い意味があまりないとおもいました。

でも、先週にこの映画を見て、この前の印象は全部かわりました。映画を見終わると、気持ちは重くなりました。実は、かわいがっていた人とわかれなくちゃいけなくて、とても悲しい物語です。こんな漫画の映画を見ている人の中で、子供もたくさんいますね。でも、子供だったら、まるこちゃんとお姉さんのことをみて、悲しくなるかもしれません。そして、子供なら、たぶんいつもいる人と別れる時がないから、この映画をみて、衝撃です。子供に見せるアニメだったら、もっと楽になればよかったとおもいました。この時、漫画家の目的が理解できませんでした。しかし、その後、漫画家のさくらももこさんのあとかきを見て、この映画のことがもっと分かりました。それから、さくらももこさんがこの映画を作る目的を知って、とても感動しました。

毎日歩いて道や逢う人や食べるご飯のような普通のこととはたぶん後からになって思い出として美しくよみがえってきます。だから、今している事や毎日

逢う人は全部大事にします。高校生の時、毎日家から学校まで同じ道を歩きました。犬と外で遊びました。両親とご飯を食べたり、時々話しました。こんな毎日していた、普通な事は今ほかの国で留学しているから、私に思い出になりました。高校生の時、気がつかなかった事はその時とても幸せだったと思います。それから、今は感謝の気持ちを持って、毎日していることも幸せに思います。

今は、このアニメについて、新し印象があります。さくらももこさんはこんな日常で、通常の映画を作って、通常じゃない人生の哲学を教えて、本当にすごいと思います。実は、大人になって、いつも色々な複雑なことを習っているけど、時々、こんな簡単な理屈を忘れていました。